

第 85 回理事会議事録

1. 開催日 平成 21 年 4 月 17 日 (金) 12 : 00
2. 場 所 鉄鋼会館 804 号室
3. 出席者 高木理事長
酒匂副理事長 (東京支部長)、川口副理事長 (東海支部長)、
永吉副理事長 (大阪支部長)、木村副理事長 (九州支部長)、
阿部理事 (北海道支部長)、岩谷 (東北支部長)、大川理事、
吉里理事、原理事、高橋理事、角田理事、真柄理事 (新潟支部長)、
高田理事、藤澤理事、山崎理事、木村理事、浅利理事 (中国支
部長)、自見 (代自見)、時任理事、瀨瀨監事
事務局 (柘野・染宮)
4. 議 題 ①理事長挨拶
②第 34 期通常総会付議事項について
③第 34 期通常総会の出席状況について
④総会運営に関する役割分担 (案) について
⑤生産性委員会の活動報告について
⑥シャリング業誕生 100 周年事業について
⑦今後の会合予定について
⑧その他

5. 経 過

(1) 高木理事長挨拶

高木理事長より大要以下の挨拶が行れた。

「4月3日の九州支部総会を皮切りに、大阪支部(15日)、東海支部(16日)と各支部総会に参加させていただき、若い人たちも交え大変有意義な交流ができたと思う。経営状況についての話も色々お聞きしたが、各地区とも需要が減退するなかで在庫過剰感が重くのしかかっており、この調整が最重要課題となっているとの意見が多かった。損をある程度覚悟で仕入れても肝心の魚がないのでは、経営はますます厳しくなるばかりだが、消耗戦だけは絶対回避しなければならない。前期1～3月は光が全く見えないまま過ぎてしまった。4～6月期もまだ底を探る動きが続いているが、在庫調整に一応メドがつけば、その戻りが幾分期待できるような、ほのかな明かりが少しずつ出てきているようだ。しかし、金融システムも傷んでいるので、回復実感に至るまでは時間がかかる。先日高炉メーカーとトヨタとの支給材価格交渉が決着かとの報道記事が出たが、これが指標となっ

てさらに前進することを期待したい。シャー各社においては今までとは違った収益構造の再構築が必要である。当組合としてはベーシックなところを、着実に実施するしかない。組合員各社のご協力をぜひお願いしたい。」

(2) 第 3 4 期通常総会付議事項について

事務局より、平成 20 年度事業報告及び決算報告、役員補欠選任、平成 21 年度事業計画及び決算の各原案に関し報告が行われ、審議の結果、了承され、それぞれ 5 月 26 日開催の通常総会に諮ることとなった。

(3) 第 3 4 期通常総会の出席状況について

事務局より、標記総会の出席状況（4 月 16 日時点）について、賛助会員 13 社・25 名、組合員 56 社・73 名である旨報告が行われた。

(4) 総会運営に関する役割分担（案）について

事務局より、3 月度総務委員会で内定した、総会運営に関する役割分担について報告が行われ、原案通り了承された。

(5) 生産性委員会の活動報告について

高田生産性委員長（東海鋼材工業(株)取締役）より概略以下の報告が行われた。

建築確認制度の改正が行われたが、不正な鋼材を使用する等の問題が発生する中で、材料が設計仕様に合致しているかどうかをチェック・確認する方法が必ずしも明確になっていない問題が表面化した。このような環境下、鉄連を通じ日本鋼構造協会の「鋼材品質証明検討委員会」（以下、委員会）に参画するよう要請を受けて、本組合としては生産性委員会のもとにタスクフォース「品質保証分科会」を設け対応していくこととなった。分科会主査を臼井美文・東京支部生産性委員長（富士鉄鋼センター取締役）にお願いし、委員会委員として参画してもらい、本組合としての対応を検討・推進してきた。

平成 20 年度の実績報告は、「品質保証分科会」の活動を中心に行い、委員会に適切な要望・意見具申が図れるよう、組合会員の実態の把握と意見の集約を図ってきた。

概ね 1 年に亘る委員会の検討を経てガイドライン（案）がまとまったが、これまでの活動・経緯を総括・報告する。

A. 鋼材品質証明に関する実態調査（組合員へのアンケート）

アンケートの実施（H20 年 6 月末）

- ・調査項目：①顧客からの受注状況 ②現品確認方法 ③製品のトレーサビリティ ④資料の保管・管理 ⑤品質監査
- ・対象：組合加盟 175 社事業所、回答率：42%

アンケート結果の集約・活用

- ・顧客からの受注状況：注文書-全数文書 63%、規格代用品の仕様書-全数文書 49%
- ・現品確認方法：JSS と異なる(顧客指定)端面塗色を使用することがあり 68%、製品 NO 記載-全数記載 62%、自動マーキング使用せず 77%
- ・製品のトレーサビリティ：ミットと製品 NO の対応容易 36%、システムポートあり 39%、対応資料提出-全数 12%・一部提出 75%
- ・資料の保管・管理：ミットの保管-全数保管 91%
- ・品質監査：公的認定資格者あり 17%

※アンケート結果のフィードバック：9 月 19 日付け資料にて、各支部長経由 組合員に報告・資料配布

B. 「品質保証検討委員会」への意見・要望

- ・要望書提出：アンケート結果に基づき「建築用鋼材の新しい品質証明方法に関する意見及び要望」を H20 年 7 月 16 日提出
- ・意見要望の骨子：①対象鋼材・部材の明確化 ②発注内容の文書化・データの電子化 ③注文仕様の精度向上(変更の解消) ④端面塗色の統一化 ⑤作業を考慮した製品 NO 記載要求と対価への配慮 ⑥トレーサビリティにかかわるコストの有料化・個別契約での方式の選択、他

C. 建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン(案)のまとめ

- ・編集：日本鋼構造協会、建築鉄骨品質管理機構、鋼材品質保証検討委員会
- ・発行所：社団法人 日本鋼構造協会
- ・上記、編集・発行にて 40~50 ページの表記冊子が発行される予定。証明方式に関しては、概ね要望項目が反映され、実態作業に基づいた証明方式となる見込みであり、最終的な文言調整等を現在実施中(4 月 21 日 WG 打ち合わせ)。
- ・発行後に、本組合として生産性委員会(品質保証分科会)として、本ガイドラインの説明会を実施していく予定(H21 年度の活動)。

(6) シヤリング業誕生 100 周年事業について

事務局より、今年はシヤリング業が誕生して 100 年目を迎えるが、こ

れを記念し、以下の事業を進めている旨報告を行い、了承された。

①教育用DVDの作成

「厚鋼板ができるまでとシャリング業のあらまし」

- a 平成4年に東京支部が制作
- b 映像時間：26分
- c 鋼板の初歩知識／鋼板ができるまで／シャリング業の鋼板の流れ／
切断方法／安全心得

「写真で見る百年史」スライド

- a 画像：代表的な鋼構造物／業界人物／機械システム
 - b 映像時間：5分
- ※制作物：DVD／トールケース×500部

②小冊子の作成

- 年表：西暦(和暦)／社会の動き／代表的な鋼構造物／組合員会社創立年
- 画像：代表的な鋼構造物、業界写真、機械およびシステムの写真
- 文章：理事長挨拶／シャリング業に関する説明／組合員・賛助会員一覧
- 規模：トールケースサイズ、20ページ、500部

会議終了後、5月26日開催の通常総会で退任予定の川口克彦副理事長より挨拶が行われた。

以上